

自粛中でも守りたい 当たり前の生活を

5月11日(月)は美容師、理容師、手話通訳、ボランティアの方々により3か月ぶりの「ふくろう理髪店」。

3密を避けフェイスガード・マスク着用、新型コロナウイルス感染症防止に配慮しながらの整髪です。見る見るうちに晴れやかな表情に変わって行きます。皆さん、美男・美女です。

ふくろう理髪店 三ヶ月振り



▲ 久方ぶりの散髪で気持ち良さそうな廣島さん

6月1日も開店できこの大変な時期にご協力いただいた皆様感謝申し上げます。



▶ ソーシャルディスタンスを守っています



▲100歳の後さんも参加され、作ったケーキにご満悦です

料理講座 ケーキ作りで笑顔絶えず

5月22日に行われた料理講座では、「こいのぼりケーキ」を作りました。参加された皆様には、飾りつけに使用するフルーツを切ったりホットケーキの粉や生クリームをハンドミキサーで混ぜたりしていただきました。

ホットケーキを焼き、それを上手に裏返せた時は、拍手や大きな歓声。中には、飾り付け用のフルーツを一口の中に入れてパクッと放り込む様子もあり、それを見て笑顔がこぼれました。(生活援助員 廣地美紀)

私は今年度新たに編集委員になりました。ふくろう学びあい文庫編集委員会では、『優生保護法と聴覚障害者』をテーマにした一冊を、優生保護裁判の動向を見ながら年内完成を目標に取り組む予定です。

私がふくろうの郷に入職したころは「介護に自分の感情はいらない」と思っていました。けれどもふくろうの郷で、入居者が送ってきた人生からいろんなことを学ぼううちに「介護は人と人、感情の関わり合いだ」と思うようになりました。

そしてさらに一回目の会議で、今回テーマとなる方々の人生と時代背景の一部を知っただけで、強く心が動かされ、これまで送ってきた繊細で壮絶で美しい人生に思いを馳せ、これらをどう伝えるか、どう代弁していくか、読む人のところに響くものを編んでいきたいと強く思いました。

(まなびあい文庫編集委員 堀田喜子)

強要された手術

破られた沈黙

こころ動かす一冊を



▶ 今年も手話サークル三原の堤ご夫妻よりブルーベリーの木が届きました。



ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
浜路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページ

<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

6月2日、以前ふくろうの郷に入居しておられた梶内嘉蔵様の息子様が手作りのフェイスシールドやシューズカバーなどを持ってお越しになりました。「材料は百円ショップで揃います」とおっしゃって、今後のことも考えて作り方も教えていただきました。ありがとうございます。

ふくろう物語 藤本紀代様

「これまで暮らして」

午前5時過ぎから聞こえてくる掃除機の音。藤本さんの1日の始まりです。

盲ろうである藤本さんは床にしゃがみ込んで丁寧に部屋のすみずみから入口、自身の居室前の廊下まで掃除されます。

藤本紀代さんは三重県松阪市で生まれ育ち、平成18年7月29日に入居され14年目、今年で80歳になります。

生まれつき聞こえず、高校3年生の時に目が見えにくくなり、45歳の時に完全に見えなくなりました。

お父さまは昭和18年に戦死され、戦地で亡くなったため遺骨は届かなかったとのこと。

お母さまは平成9年に亡く



▲全聴福研東京へ（平成18年11月）

（右端藤本さん）

なるまで紀代さんと一緒に暮らしていたそうです。その住み慣れた長屋が取り壊されることになり、次の住居を探していた時に淡路ふくろうの郷が開所されることを知ったご家族が申し込まれました。

新たな暮らしへの不安

ふくろうの郷が開所し、入居される前まで有料老人ホームで生活をされていましたが、職員や入居者との意思疎通が困難であり、トラブルもあつたそうです。

ふくろうの郷へ入居当初から気持ち不安定になることがありましたが、外出して買

い物や旅行が大好きな藤本さんは入居初年度に行われた愛知県への旅行、東京で開催された全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会（写真）に参加され、更に全国盲ろう者大会にも盲ろう通訳介助員の協力をいただいで参加されました。

また、「兵庫盲ろう者友の会」の取り組みとして、ふくろうの郷で月1回開かれていた「リリアン会」を楽しみにされています。淡路で暮らす盲ろう者の交流の場です。

「きんご」とは自分でやりたい

藤本さんは一人で生活をされていた時には自炊をされていたため、ふくろうの郷で提供される食事以外にご自身で作りたい思いが強く、「居室内で火を使った調理を行いたい」と何度も話されていました。ですが失火の危険性があるため受け入れることができませんでした。

希望を少しでも叶えるため、ユニットでの料理レクリエーションやくらしづくり・学びの場として毎月開催している「料理講座」に参加されています。



▶慎重に裏返しケーキ作り
（令和2年5月22日）

朝食後には毎日運動されています。入居された頃は館外まで白杖を手に歩いて散歩に出ていましたが、現在ではユニット内、居室内を往復して歩く運動になってきました。ふくろうの郷で朝食後に入居者さんが集まり、今日一日の予定のお知らせや体操を行っています。職員が触手話通訳を行い藤本さんも参加されています。

寄り添い・相手を思うとは

見えないこと、聞こえないことから出来事を悪く考えたり、気持ちが不安定になり落ち込まれることもあります。

藤本さんの気持ちを受け止めて支えてあげられれば良いのですが、藤本さんの思いをすぐには理解できない時もあります。

しかし、健聴、ろう者、盲者、盲聾者、障がい者、関係なく考え方、受け止め方の違い、価値観、生活様式が異なるのは常で、それでもその人に関わろうとし続けることができる「ことだと考えます。

ふくろうの郷職員の枠組みだけではなく、藤本さんの人生に関わってこられた方々の力や知恵をお借りしながら、目の前にいる藤本さんと日々向き合っていきたいと思えます。

（生活援助員 神代雅司）

新型コロナ対策

施設内で発症したら

職員が復帰できるようになるまでの2週間を目途におこなう。

3. ユニット、施設の掃除には塩素系洗剤を使用する。

国から緊急事態宣言が発令名)

された翌日、4月8日「当施設でコロナウイルスに感染した場合は動きについて」話し合いました。

- ・夜勤者の人数確保(1日4名)
- ・最低限度の対応職員を確保
- ・早出、日勤、遅出を1人ずつ配置
- ・配置できない場合は1階、2階で応援し合う。
- ・一般浴対応は中止し、個別浴、居室対応での清拭対応をおこなう。
- ・1日3人以上の対応を目途に、1週間で入居者全員の対応ができるようにする。

現在、緊急事態宣言も解除され、通常の暮らしに戻りつつあるとはいえ、常に施設での感染、職員の感染の可能性はなくなっておりません。しかも感染の第二波、第三波が来ると警告されています。

1. 職員自身に37.5以上の発熱や味、臭いを感じられないなど、気になる症状が出れば副主任、管理職に報告し自宅待機とする。

2. 入居者に37.5以上の発熱があれば居室に隔離を行う。

3. ユニット、施設の掃除には塩素系洗剤を使用する。

医療機関受診後、新型コロナに感染が判明した場合には濃厚接触者とされる職員以外の残った職員でユニット対応する。

2. 入居者に37.5以上の発熱があれば居室に隔離を行う。

①職員体制の確保の課題

濃厚接触者となり自宅待機になった場合は加野副施設長、他ユニットの副主任、残った他ユニット職員で調整、対応を行う。

20枚の防護服が無くなればビニール袋などを用いて作成して対応する。

食事は感染対策時の応用で対応する。

【対応内容】

(生活援助員 神代雅司)

～ 入居者の暮らし ① ～

平成29年11月に入居された長谷川清さん
ふくろうの郷での暮らしにも慣れ、絵手紙講座をはじめ書道・料理講座などに積極的に参加されています。ふれあい座(演劇講座)で影響を受けたのか、朝刊の折り込みチラシに入っていた大衆演劇の観賞を希望され、職員と外出されたこともありました。色んなことに興味深々な長谷川さんです。

ぬり絵の取り組みもとても興味を示されて、食事の時間になっても手を止めないぐらい熱中されています。

いつも昼食を食べた後に調理職員に完成したぬり絵を持って来られ、話をしてくれています。長谷川さんの独特の色彩観に驚くこともありますが、出来栄が良い時には、誇らしく自信に満ち溢れておられます。新たな楽しみを見つけれられています。



(生活援助員 木下卓幸)

回想法 毎月開催

回想法とは、入居者に昔の経験を語り合ってもらうことで、脳の活性化を促したり、気持ちを安定させることができる心理療法です。

ふくろうの郷では毎月、臨床心理士の講師を招いておこなっていますが、新型コロナウイルスの影響で、先月今月はアドバイスをもらいながら職員のみで実施しています。5月はこどもの日にちなんで「子どもや孫との思い出」をテーマにお話ししました。「私は子ども5人産んだ」と語られる一方、「子どもは持てなかった…」と話される方も少なくありません。ある男性入居者は、昔を思い出すのが難しいようで「子どもと何処に遊びに行ったか…思い出せないなあ」と顔をしかめるも、「それでもみんな立派に育てたぞ」と誇らしげに話されていました。

(生活援助員 川満 和則)

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

医療機関への 理解促進を

コロナウイルス感染症は収束の兆しを見せているものの第2波、第3波の到来も取りざたされています。

国が進めている遠隔手話通訳システム整備について兵庫県も導入を検討されています。淡路ではそれに先立ち、体験を通じての意見集約・課題を話し合いました。

■タブレットを使って

5月25日、30日の2回にわたって淡路聴覚障害者協会の事務所にて役員とともに、実際にタブレットを使っての模擬遠隔通訳の体験を行いました。

コロナ受診に特化した手話通訳 タブレットを使っての遠隔手話通訳の試み

④ 高齢者の中には医者との質問や説明を手話にしても読み取りが困難な方がいる。分かりやすい絵カード



▲タブレットを見て話さる患者役の斉藤さん

力してもらえるのか。それはどこが責任をもつてやってもらえるのか。

- ① 課題
① スマホとは違い画面が大きいく手話が見やすい。
- ② しかし体調の悪い時にタブレットの手話は読みとりにくい。
- ③ 医療機関に対してタブレットの設置や操作について協

- ⑤ 発熱時等すぐ助けを呼べる備えがあるのか(緊急通報システム)
- ⑥ 発熱時の受診や入院時はどこの医療機関になるのか等、様々な問題が挙げられました。

医療機関への理解促進については行政からの働き掛けも必要と考えます。

■体験の場を広げ、さらなる課題の整理を

今回は役員のみでの体験ですが、今後特にリスクを負う高齢者にも広げてゆきます。

また、現在は、医療機関の通訳はセンターの職員のみで行っていますが、登録通訳者にも担える条件も想定され、その場合の身分保障等について登録通訳者との協議も予定しています。



▲手話通訳者役の楠本職員

新職員紹介

酒井真由美と申します。5月の連休明けから淡路聴覚障害者センターで仕事をしています。神戸から高速バスで通っていて、まだ西も東も分かりません。ろうの顔見知りの方も少ないですが、ぼちぼち慣れていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



ご寄付ありがとうございました
東京都の(株)城南村田さんからフェイスシールドのご寄付をいただきました。

手話奉仕員養成講座開講の中止について

5月号で開催延期の案内をしていました。この間、申込者からいつから開講しますか、との問い合わせがあり、積極的な気持ちにお応えしたいと、時期を遅らせての開講とかオンラインでの方法を模索しました。事業主体である洲本市、南あわじ市、淡路市とも協議し、コロナ感染の第2波、第3波の到来も予測され、まだ安心できる状況にはないということで、令和2年度については中止することとなりました。

「手話に触れてみよう」(仮テーマ)で短期間での講座開催を検討中です。



**中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター**



兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
☎656-0002
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

**草刈り・伐木の
依頼に**

5月に入って、中川原地域の方から、草刈り・伐木等作業依頼が5件続きました。依頼して下さった方は今までにも何度も繰り返し依頼して下さっている方達です。

「おたがいさま事業」としておのころの家が応援に入り終わった時には、身振り・手振りや、口を動かして「一生懸命きれいにして下さいあってありがとう。」「来てくれて助かるわ。」等感謝の言葉をいただきます。今の時期、自粛自粛とテレビをつければ暗いニュースばかり。

暗いニュースばかりこんな時だからこそ「おたがいさま」

の気持ちを大切に、喜んでいただけるようにいつも笑顔で取り組んでいきたいと思えます。

また、作業依頼していただきますようお願いしております。

(橋詰)

**最高齢利用者の
山野信彦さん**

おのころの家の山野信彦さんについてご紹介します。

山野さんは94歳、大正15年3月31日、洲本市由良生まれの高齢ですが、毎日休むことなくおのころの家に通っています。



ふれあいセンターへ移転の作品した山野さん (平成25年11月)



ユーモアがありジェントルマンの山野さんは若い利用者さんにも人気があり、山野さんの周りにはいつも笑顔が絶えません。

高齢となり食も細くなってきたので、調理員さんも含め、食材を工夫したりみんなで話しかけたりと、なんとか山野さんにおいしくご飯を食べてもらおうと頑張っています。

お魚やお寿司が好きなので、また「おつかれさん会」でみんなが回転寿司に行けたらいいなと思っています。



働く事が好きだったが...

若い時は、漁をしたり、平成の初めまでは、土建の仕事したり、体力には自信を持っておられました。足が弱って農作業に行けない日も増えました。しかし、今年も淡路特産玉ねぎの収穫シーズンとなり、玉ねぎの葉と根切りの作業がある日は畑に出て作業に励まれるのです。

農作業に出られない日は室内で創作作業です。

今はちぎり絵や屏風に取り組んでおられ切手をちぎってピンセットで貼り付ける細かい作業です。すごい根気です。

休憩時間にはベランダに出

新任職員のご紹介

5月1日からおのころの家で支援員として勤めています。興津典子と申します。

出身は千葉で約30年前に東京で手話を学びました。

言葉も手話も関東なまりのため、時々、伝わりにくいこともあり利用者さんから指摘され、教えて頂いております。

一日も早く淡路島の生活にも慣れ、おのころの家の支援員として貢献できるよう日々研鑽して参ります。

みなさんどうぞご指導を宜しくお願いいたします。

(支援員 興津典子)

て、おいしそうに一服されます。

いつまでもおのころの家に来て仕事ができることがとても楽しみと話されます。

みんなが100歳のお祝いをしてほしいです。

(支援員 山本成美)

神戸事業所

共同作業所 神戸ろうあハウス

神戸ろうあハウス デイサービスセンター

神戸市兵庫区駅南通5-4 西高架下16号

〒652-0897
TEL & FAX ... 〇七八一五七九一〇七五五



▲昔の井戸の残骸が見つかりました

四月十三日(月)の地鎮祭から一ヶ月半が過ぎました。次の日から工事が始まり、先ずは、資材置き場のために借りた隣の土地に工事事務所のプレハブが建てられ、大きなトラックが出入りして鉄骨(杭)が運ばれました。

基礎工事進む

上棟式は7月1日に

神戸長田
ふくろうの杜



▲5月29日基礎工事



▲5月7日掘削工事

敷地ではシヨベルカーが土を掘り、杭打ちの準備、途中、昔の井戸の残骸や、阪神淡路大震災の時の瓦礫などが出てきて、その報告を受けた神戸事業所としては、どうなるのかと少し心配しましたが、工事は着々と進み七月一日には上棟式が出来そうで、夢の実現へ、また一歩近づきます。

一億円の目標に向かって新型コロナウィルス禍にも関わらず、地域で寄付を集めてくださったり、毎月、欠かさず振込みしてくださったりと皆さんの思いがひしと伝わります。

事業を担うのは社福ですが、私たちは沢山の人の希望も担っているのだと改めて感じ、自ずと感謝の気持ち湧いてきます。

(神戸事業所)

(眞木崇江)

神戸施設建設募金

目標 1 億円 !!

募金合計額 **84,775,236 円**

2020.5.31 現在 (プレート募金 244 人)

目標1億円まで、あと **15,224,764 円**

～ ふくろうの暮らし ～

- 6月19日 健康診断
- 6月21日 初夏まつり
- 6月26日 料理講座
- 6月27日 手話講座
- 7月6日 ふくろう理髪店
- 7月7日 誕生会・演劇講座

20日 21日 22日 祝日



▶長谷川さんがぬり絵された「あじさい」です。法人のホームページで、長谷川さんの色彩をご覧ください。(3頁に関連記事)